

MCI 全国有症率調査と認知症診断補助ツールの開発に関する研究（25-26）

主任研究者 島田 裕之 国立長寿医療研究センター 予防老年学研究部（部長）

研究要旨

3 年間全体について

Mild cognitive impairment (MCI) の全国有症率調査を 3 年間かけて実施し、14363 名を対象に調査を実施した。調査地域は、北海道、東北、関東、中部地方とした。本研究で用いた MCI の基準に該当したものは 2631 名 (18.3%) で、各コホートの内訳は以下のとおりである (北海道: 207 人[20.6%]、東北: 239 人[22.4%]、関東: 322 人[22.9%]、中部: 1863 人[17.1%])。概ねどのコホートも同様の有症率であることが明らかになった。さらに、年代別有症率を算出すると以下のとおりであり (65-69 歳: 594 人[19.8%]、70-74 歳: 896 人[19.1%]、75-79 歳: 545 人[15.0%]、80-84 歳: 403 人[19.0%]、85 歳以上: 193 人[21.3%])、年代によって MCI 有症率に大きな差は認められなかった。これを平成 27 年 11 月の人口統計に当てはめると、日本全体で 640 万人が MCI であると推定される。そのうち、多領域において認知機能低下がみられる者は約 213 万人であり、これらの高齢者には認知症予防のための対処が必要であると考えられた。

平成 27 年度について

MCI の全国有症率調査のために、北海道、東北、関東コホートでは継続して調査が実施された。また、医療機関における NCGG-FAT の活用を見据え、もの忘れ外来の患者を対象に NCGG-FAT を用いて 16 名 (AD7 名、MCI7 名、診断なし 2 名) を対象に調査を実施した。その結果 AD においては 1 名を除く 6 名 (86%) が amnesic multiple 型であった。一方で、病院で MCI と診断された者は amnesic multiple 型と amnesic single 型が混在していた。今後他の病型分類についても十分な検討が必要であると考えられる。生活習慣における認知機能の関連因子の検討では、地域高齢者において中程度以上運動強度の余暇活動を実施することが、認知機能低下と横断的に関連をもつだけでなく、将来の認知機能悪化にも縦断的な関連性が示された。

主任研究者

島田 裕之 国立長寿医療研究センター予防老年学研究部（部長）

分担研究者

古名 丈人 札幌医科大学保健医療学部（教授）
吉田 英世 東京都健康長寿医療センター研究所（研究部長）
吉田 裕人 東北文化学園大学健康社会システム研究科（教授）
朴 眩泰 東亜大学（教授）（平成 25～26 年度）
秋下 雅弘 東京大学医学部附属病院（教授）（平成 26～27 年度）
神崎 恒一 杏林大学医学部（教授）（平成 26～27 年度）
跡見 順子 東京農工大学材料健康科学寄附講座（教授）（平成 26～27 年度）
飯島 勝矢 東京大学 高齢社会総合研究機構（准教授）（平成 27 年 11 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

研究期間 平成 25 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日

A. 研究目的

認知症の主な原因疾患であるアルツハイマー病および脳血管疾患に対する根治療法や予防薬の開発が確立されていない現在において、認知症の予防もしくは発症遅延のための非薬物療法の可能性を検討することは重要である。認知症ではないが正常とも言い難い軽度の認知機能低下を有する状態は、軽度認知障害（mild cognitive impairment: MCI）と呼ばれ、近い将来に認知症を発症する危険が高い（Petersen RC. N Engl J Med 2011）。Ward らのレビューによれば、3～42%とされた（Ward A et al. 2012 Alzheimers Dement）。MCI を有する者は認知症に移行する危険性が高い反面、正常の認知機能に回復する場合もあり、認知症予防を積極的に推進すべき状態と考えられている。

MCI の判定に用いられる認知機能評価について統一された手法は未だ確立していない状況にあるが、客観的な認知機能低下を有するという点においては、一定のコンセンサスが得られている。従来、MCI を判定するための認知機能検査は専門職者によって実施されてきた。そのため、地域保健においては専門職を集めてスクリーニング検査を実施することは困難であり、集団検査の実施や、全般的な認知機能のスクリーニング検査しか実施することができなかった。しかし、これらの検査で MCI を判定することは難しく、地域においてどれくらいの高齢者が MCI の状態であるかは十分に明らかとなっていない。

本申請課題の研究目的は、全国で NCGG-FAT を用いて（平成 25 年～27 年度）、高齢者の認知機能検査を実施し、地域における MCI の有症率を明らかにすることとした。平成 27 年度は、医療機関における NCGG-FAT の活用を検討するために、認知症の病型分類における NCGG-FAT の結果を調査した。また、MCI や認知機能と各種活動習慣との関連を調べ、

認知機能低下抑制のために必要な活動内容の検討もあわせて行った。

B. 研究方法

3年間全体について

3年間を通して実施された、北海道、東北（宮城）、関東（東京）、中部（愛知）地方の各コホートから収集した高齢者データベースから MCI の有症率を算出した。対象者の総数は 14363 名とした。MCI の定義は、Peterson らの基準 (Peterson et al. J Intern Med 2004) に準じ、1. 日常生活が自立、2. 全体的な認知機能が低下していないこと (Mini-Mental State Examination : MMSE \geq 24)、3. 認知症と診断されていないこと、4. 各領域における認知機能が軽度低下していること (標準値より 1.5SD 以上の低下が認められる) の各基準を満たしていることとした。認知機能評価は NCGG-FAT を用いて実施され、測定項目は trail making test part A & B (tablet version)、digit symbol substitution test (tablet version)、logical memory delayed recognition (tablet version)、word memory delayed recall (tablet version)、figure recognition とした。さらに、MCI は、低下している認知機能の領域によりサブタイプに分類し、記憶に関する認知機能低下がみられるものを健忘型 MCI (amnesic MCI: aMCI) 、記憶以外の認知機能低下がみられるものを非健忘型 MCI (non-amnesic MCI: naMCI) とし、単領域の障害の場合には single domain、複数領域の障害が認められた場合は multiple domain として 4 つのサブタイプに分類した。さらに、5 歳階級別の有症率を算出し、人口統計上を元に全国における MCI の推計人数を合わせて算出した。

平成 27 年度について

全国調査については 3 年間を通して実施されている方法にて調査を実施し、継続してデータの蓄積を行い、最終的な統合データセットの作成を行った。NCGG-FAT が認知症の病型分類に沿った評価指標になりうるかを検討するために、病院での調査を実施した。対象者は国立長寿医療研究センターのもの忘れ外来を受診した高齢者 16 名を対象とした。

認知機能低下に関連する要因を検討するために、横断解析と縦断解析を合わせて実施した。横断的検討は 1949 名 (平均年齢 72.5 \pm 5.5 歳、男性 967 名、女性 982 名) を分析対象者とし、縦断的検討は 1587 名 (平均年齢 72.3 \pm 5.5 歳、男性 806 名、女性 781 名) を分析対象者とした。認知機能評価は MMSE を用い、身体活動は世界標準化身体活動質問票 (Global Physical Activity Questionnaire; GPAQ) 日本語版を用いた。交絡因子として手段の日常生活動作 (Instrumental Activity of Daily Living; IADL)、抑うつ傾向、服薬種数を評価した。解析は二項ロジスティック回帰分析を用い、認知機能低下に対し横断的関連と縦断的関連を有する因子を検討した。

(倫理面への配慮)

3年間全体について

本課題にかかる内容については、ヘルシンキ宣言を尊重し、十分に倫理的配慮を行い、国立長寿医療研究センターならびに各機関における倫理審査を経て実施された。

C. 研究結果

3年間全体について

全国調査における全体対象者 14363 名 (平均年齢 74.5±6.0 歳、女性 57%) から MCI と判定された者は 2631 名 (18.3%) であった (図 1)。MCI の subtype 別の内訳は、aMCI single が 923 名 (6.4%)、aMCI multiple が 535 名 (3.7%)、naMCI single が 876 名 (6.1%)、naMCI multiple が 297 名 (2.1%) であった。コホート別の有症率と合わせた値は表のとおりであり、どのコホートも 20%前後であった。さらに、全体の MCI の有症率を 5 歳階級別にみると、以下のとおりであった (65-69 歳:594 人[19.8%]、70-74 歳:896 人[19.1%]、75-79 歳:545 人[15.0%]、80-84 歳:403 人[19.0%]、85 歳以上:193 人[21.3%])。総務省の発表している人口統計資料 (平成 27 年 11 月 1 日) に基づいた人口は、65-69 歳:9778 千人、70-74 歳:7760 千人、75-79 歳:6368 千人、80-84 歳:5042 千人、85 歳以上:5036 千人

(<http://www.stat.go.jp/data/jinsui/index.htm>) であったため、本調査の 5 歳階級別の MCI の有症率を元に我が国における MCI 推計人数を算出すると、約 640 万人であった。そのうち、多領域において認知機能低下がみられる aMCI multiple または naMCI multiple に該当する者は約 213 万人であった。

平成 27 年度について

全国調査については、北海道、東北、関東コホートにおいて継続して調査が実施され、前述のとおり研究期間全体で 14363 名の測定が実施された。病院での調査においては、AD 疑いを含めた AD と診断された者は、1 名を除き amnesic multiple であった。また、MCI においては amnesic single と amnesic multiple が混在し、認知機能低下にばらつきがみられた。また、認知症の診断がつかず、主観的認知機能障害 (subjective cognitive impairment: SCI) と判断された者は 2 名で、NCGG-FAT による評価結果は、認知機能低下なしと amnesic single であった。

認知機能低下に関連する要因の検討として、身体活動と認知機能障害との横断的関連性を二項ロジスティック回帰分析にて検討したところ、余暇活動時間が下位 [0 分/日] であること (オッズ比=2.13 [95%信頼区間:1.0-4.8], p=0.047)、後期高齢者であること (オッズ比=4.32 [95%信頼区間:2.1-8.8], p<.0001)、IADL に不具合があること (オッズ比=4.93 [95%信頼区間:1.8-13], p=0.001) が関連因子として挙げられた。縦断的解析においては、年齢や性別のみで調整では、余暇活動時間が下位 [0 分/日] であることが横断的検討と同様に有意な関連因子として挙げられたが (オッズ比=1.40 [95%信頼区間:1.1-2.0], p=0.041)、交絡因子をさらに補正したモデルでは同様の

傾向がみられたものの、その有意性は惜しくも失われた(オッズ比=1.33 [95%信頼区間:0.98-1.9], p=0.069)。

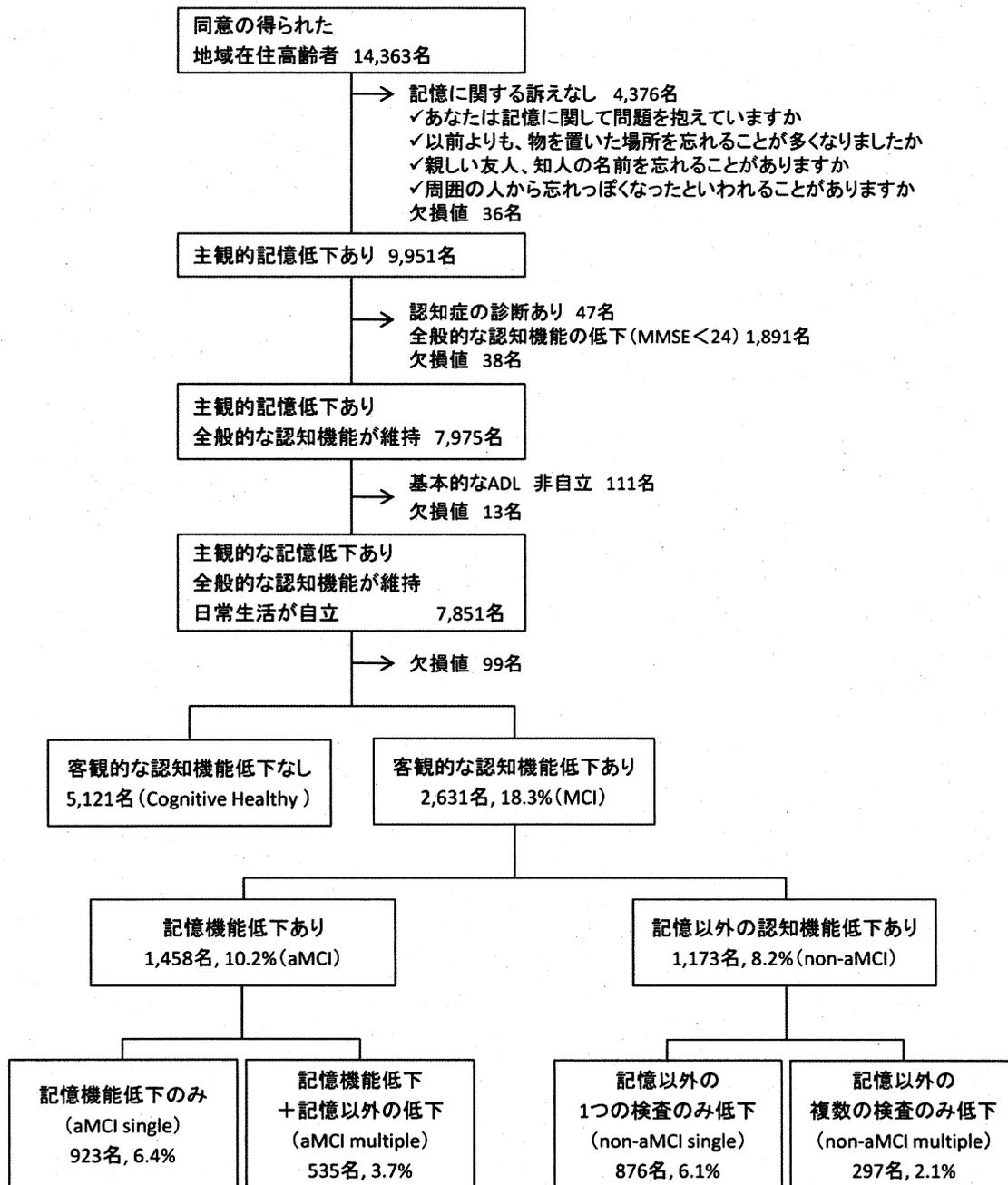


図1 全国調査におけるMCI選定フロー

表1 各コホートにおける該当者数と有症率の比較

コホート		aMCI		naMCI		合計
		single	multiple	single	multiple	
中部 (n=10885)	該当者数 (人)	684	338	654	187	1863
	割合 (%)	6.3	3.1	6.0	1.7	17.1
北海道 (n=1006)	該当者数	96	31	60	20	207
	コホートの %	9.5	3.1	6.0	2.0	20.6
東北 (n=1066)	該当者数	30	76	73	60	239
	コホートの %	2.8	7.1	6.8	5.6	22.4
関東 (n=1406)	該当者数	113	90	89	30	322
	コホートの %	8.0	6.4	6.3	2.1	22.9
全体 (n=14363)	該当者数	923	535	876	297	2631
	コホートの %	6.4	3.7	6.1	2.1	18.3

D. 考察と結論

3年間全体について

本研究の中心的課題である全国調査による MCI 有症率調査によって、コホート間において若干のばらつきはみられるものの、18.3%という有症率が明らかになった。さらに、MCI の下位分類として多領域における認知機能低下をもつ aMCI multiple は 3.7%、naMCI multiple は 2.1%であった。

MCI の有症率は、Ward らのレビューによると 3~42%と非常にばらつきが大きいことが報告された (Ward A et al. *Alzheimers Dement* 2012)。ばらつきの主な要因としては、MCI を判別するために用いられる認知機能評価の方法の違いとコホート特性があげられた。特に、コホート特性については病院ベースのコホートと地域在住高齢者を対象にしたコホートで違いがみられると考えられている。地域在住高齢者を対象にした先行研究では、10%~20%前後の有症率が報告されており (Jia J et al. *Alzheimers Dement* 2012, Busse A et al.

Psychological Medicine 2003, Brodaty H et al. *Alzheimers Dement* 2013)、本研究の結果も概ね同様の有症率を示したと考えられる。MCI は認知症への移行リスクが高く、特に多領域における認知機能低下がみられる aMCI multiple ならびに naMCI multiple は認知症への高い

リスクをもつためハイリスクアプローチの焦点を当てる必要があると考えられている (Brodaty H et al. *Alzheimers Dement* 2013)。さらに、多領域における認知機能低下がみられる aMCI multiple ならびに naMCI multiple は新規要介護認定のリスクも高いことが明らかになっており、介護予防の観点からも着目する必要があると考えられる (Makizako H et al. *J Am Geriatr Soc* 2015)。実際、本研究の有症率から人口統計情報をもとに推計すると、約 213 万人が該当するため積極的な予防的アプローチが求められる。

平成 27 年度について

病院における調査の結果から、AD に対する評価として NCGG-FAT を活用することが有用である可能性が示唆された。AD は病期の進行に合わせて認知機能障害が重度になり、さらには記憶を中心に遂行機能や言語機能など多領域における認知機能障害が特性として認識されている (Alzheimer's Association. *Alzheimers Dement* 2015)。実際に、NCGG-FAT による評価においても病院で診断された AD の機能特性として多領域における認知機能障害、特に健忘型 (amnesic multiple) が認められた。そのため、AD の機能評価としては NCGG-FAT による評価がある程度有用であると考えられる。しかし、他の病型分類については本研究においては十分に検討できていないため、さらなる検討が必要である。

認知機能低下と関連する要因の検討においては、中程度以上運動強度の余暇活動時間を多くとることが、横断的にも縦断的にも認知機能低下と関連性を持つことが明らかにされた。この結果は、身体活動低下が認知機能低下や認知症の発症リスクとなるという先行研究を支持するものであると考えられる (Larson EB, et al. *Ann Intern Med* 2006, Buchman AS, et al. *Neurology* 2012)。余暇活動での身体活動は、趣味の活動やスポーツなど娯楽性がある点に加え友人や仲間などと共に活動するため社会活動的な要素も含まれるため、認知機能低下との関連性を示したものと考えられる。身体活動だけでなく、知的活動や社会活動を包括的に促進することが予防的アプローチを加速することが出来ると考えられる。

E. 健康危険情報

なし

F. 研究発表

1. 論文発表

平成 25 年度

(主任研究者)

1. Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Ito T, Lee S, Park H, Suzuki T. Combined Prevalence of Frailty and Mild Cognitive Impairment in a

- Population of Elderly Japanese People. *J Am Med Dir Assoc*, 14(7): 518-524, 2013.
2. Makizako H, Doi T, Shimada H, Yoshida D, Takayama Y, Suzuki T. Relationship between dual-task performance and neurocognitive measures in older adults with mild cognitive impairment. *Geriatr Gerontol Int*, 13(2) : 314-321, 2013.
 3. Shimada H, Suzuki T, Suzukawa M, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Ito T, Lee S, Park H. Performance-based assessments and demand for personal care in older Japanese people: a cross-sectional study. *BMJ Open*, 10;3(4). pii: e002424, 2013.
 4. Suzuki T, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Ito K, Shimokata H, Washimi Y, Endo H, Kato T. A randomized controlled trial of multicomponent exercise in older adults with mild cognitive impairment. *PLoS One*, 8(4):e61483, 2013.
 5. Makizako M, Makizako H, Doi T, Uemura K, Tsutsumimoto K, Miyaguchi H, Shimada H. Olfactory Identification and Cognitive Performance in Community-Dwelling Older Adults With Mild Cognitive Impairment. *Chemical Senses*, 39(1): 39-46, 2014.
 6. Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Uemura K, Anan Y, Park H, Lee S, Ito T, Suzuki T. The combined status of physical performance and depressive symptoms is strongly associated with a history of falling in community-dwelling elderly: Cross-sectional findings from the Obu Study of Health Promotion for the Elderly (OSHPE). *Arch Gerontol Geriatr*, 58(3): 327-331, 2014.
 7. Makizako H, Shimada H, Doi T, Hyuntae Park, Yoshida D, Uemura K, Tsutsumimoto K, Liu-Ambrose T, Suzuki T. Poor balance and lower gray matter volume predict falls in older adults with mild cognitive impairment. *BMC Neurology*, 13(1): 102, 2013.
 8. Shimada H, Ishii K, Ishiwata K, Oda K, Suzukawa M, Makizako H, Doi T, Suzuki T. Gait adaptability and brain activity during unaccustomed treadmill walking in healthy elderly females. *Gait Posture*, 38(2): 203-208, 2013.
 9. Makizako H, Shimada H, Doi T, Park H, Yoshida D, Suzuki T. Six-Minute Walking Distance Correlated with Memory and Brain Volume in Older Adults with Mild Cognitive Impairment: A Voxel-Based Morphometry Study. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra*, 3: 223-232, 2013.
 10. Makizako H, Shimada H, Park H, Doi T, Yoshida D, Uemura K, Tsutsumimoto K, Suzuki T. Evaluation of multidimensional neurocognitive function using a tablet personal computer: Test-retest reliability and validity in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*, 13: 860-866, 2013.
 11. Doi T, Shimada H, Makizako H, Lee S, Park H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Yoshida D, Anan Y, Suzuki T. Cognitive Activities and Instrumental Activity of Daily Living in Older Adults with Mild Cognitive Impairment. *Dement Geriatr Cogn Disord Extra*, 3: 398-406, 2013.
 12. Makizako H, Furuna T, Ihira H, Shimada H. Age-related differences in the influence of cognitive task performance on postural control under unstable balance conditions. *International*

Journal of Gerontology, 7: 199-204, 2013.

(分担研究者)

1. Mizumoto A, Ihira H, Yasuda K, Makino K, Miyabe Y, Saitoh S, Ohnishi H, Suzuki T, Furuna T: Associations between serum 25-hydroxyvitamin D concentration and physical performance in old-old people living in a northern area of Japan. *Journal of Gerontology & Geriatric Research*, 2(4): 135, 2013.
2. 井平 光, 古名 丈人. 【これからの筋力トレーニングのあり方】 高齢者に対する筋力トレーニングのあり方. *理学療法*, 30(9), 1010-1016, 2013.
3. Iwasa H, Kai I, Yoshida Y, Suzuki T, Kim H, Yoshida H. Global cognition and 8-year survival among Japanese community-dwelling older adults. *Int J Geriatr Psychiatry*, 28(8), 841-849, 2013.
4. 新開省二, 渡辺直紀, 吉田裕人, 藤原佳典, 西真理子, 深谷太郎, 李相侖, 金美芝, 小川貴志子, 村山洋史, 谷口優, 清水由美子. 『介護予防チェックリスト』の虚弱指標としての妥当性の検証, *日本公衛誌*, 60(5): 262-274, 2013.
5. 新開省二, 吉田裕人, 藤原佳典, 天野秀紀, 深谷太郎, 李相侖, 渡辺直紀, 渡辺修一郎, 熊谷修, 西真理子, 村山洋史, 谷口優, 小宇佐陽子, 大場宏実, 清水由美子, 野藤悠, 岡部たづる, 干川なつみ, 土屋由美子. 群馬県草津町における介護予防 10 年間の歩みと成果. *日本公衛誌*, 60(9): 596-605, 2013.
6. Yuki Ohara, Hirohiko Hirano, Yutaka Watanabe, Ayako Edahiro, Emiko Sato, Shoji Sinkai, Hiroto Yoshida and Shiro Mataka. Masseter muscle tension and chewing ability in older persons. *Geriatr Gerontol Int*, 13(2): 372-377, 2013.
7. 天野秀紀, 吉田裕人, 西真理子, 藤原佳典, 渡辺直紀, 李相侖, 深谷太郎, 村山洋史, 新開省二, 土屋由美子. 高齢期記憶機能低下の予後と危険因子. *厚生*の指標, 60(13): 7-14, 2013.

平成 26 年度

(主任研究者)

1. Shimada H, Tsutsumimoto K, Lee S, Doi T, Makizako H, Lee S, Harada K, Hotta R, Bae S, Nakakubo S, Uemura K, Park H, Suzuki T. Driving Continuity in Cognitively Impaired Older Drivers. *Geriatr Gerontol Int*, 16(4):508-14, 2016.
2. Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Suzuki T. Incidence of disability in frail older persons with or without slow walking speed. *J Am Med Direct*, 16(8):690-6, 2015.
3. Makizako H, Shimada H, Doi T, Yoshida D, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Liu-Ambrose T, Park H, Lee S, Suzuki T. Physical frailty predicts incident depressive

symptoms in elderly people: prospective findings from the OSHPE. *Journal of the American Medical Directors Association*, 16(3): 194-199, 2015.

4. Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Hotta R, Nakakubo S, Harada K, Lee S, Bae S, Harada K, Suzuki T. Cognitive Functioning and Walking Speed in Older Adults as Predictors of Limitations in Self-Reported Instrumental Activity of Daily Living: Prospective Findings from the Obu Study of Health Promotion for the Elderly. *Int J Environ Res Public Health*, 12(3): 3002-3013, 2015.
5. Doi T, Makizako H, Shimada H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Park H, Suzuki T. Objectively measured physical activity, brain atrophy, and white matter lesions in older adults with mild cognitive impairment. *Experimental Gerontology*, 62: 1-6, 2015.
6. Kim H, Suzuki T, Kim M, Kojima N, Yoshida Y, Hirano H, Saito K, Iwasa H, Shimada H, Hosoi E, Yoshida H. Incidence and Predictors of Sarcopenia Onset in Community-Dwelling Elderly Japanese Women: 4-Year Follow-Up Study. *J Am Med Dir Assoc*, 16(1): 85.e1-85.e8, 2015.
7. Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T. Association of insulin-like growth factor-1 with mild cognitive impairment and slow gait speed. *Neurobiol Aging*, 36: 942-947, 2015.
8. Tsutsumimoto K, Doi T, Shimada H, Makizako H, Uemura K, Ando H, Suzuki T. Self-reported Exhaustion is Associated with Small Life Space in Older Adults with Mild Cognitive Impairment. *J Phys Ther Sci*, 26(12): 1979-83, 2014.
9. Uemura K, Shimada H, Doi T, Makizako H, Park H, Suzuki T. Depressive symptoms in older adults are associated with decreased cerebral oxygenation of the prefrontal cortex during a trail-making test. *Archives of Gerontology and Geriatrics*, 59(2): 422-428, 2014.
10. Yoshida D, Shimada H, Park H, Anan Y, Ito T, Harada A, Suzuki T. Development of an equation for estimating appendicular skeletal muscle mass in Japanese older adults using bioelectrical impedance analysis. *Geriatr Gerontol Int*, 14: 851-857, 2014.
11. Makizako H, Shimada H, Doi T, Park H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Lee S, Yoshida D, Anan Y, Ito T, Suzuki T. Moderate-Intensity Physical Activity, Cognition and APOE Genotype in Older Adults with Mild Cognitive Impairment. *Ann Gerontol Geriatric Res*, 1(1): 1002, 2014.
12. Shimada H, Park H, Makizako H, Doi T, Lee S, Suzuki T. Depressive symptoms and cognitive performance in older adults. *Journal of Psychiatric Research*, 57: 149-156, 2014.
13. Kojima N, Kim H, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T. Association of knee-extension strength with instrumental activities of daily living in community-dwelling older adults. *Geriatr Gerontol Int*, 14(3): 674-680, 2014.
14. Uemura K, Shimada H, Makizako H, Doi T, Tsutsumimoto K, Yoshida D, Anan Y, Ito T, Lee S, Park H, Suzuki T. Effects of mild and global cognitive impairment on the prevalence of fear of

falling in community-dwelling older adults. *Maturitas*, 78(1): 62-66, 2014.

15. Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Lee S, Park H, Suzuki T. A large, cross-sectional observational study of serum BDNF, cognitive function, and mild cognitive impairment in the elderly. *Frontiers in Aging Neuroscience*, 6(69): 1-9, 2014.
16. Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Anan Y, Suzuki T. Cognitive function and gait speed under normal and dual-task walking among older adults with mild cognitive impairment. *BMC Neurology*, 14(1): 67, 2014.

(分担研究者)

1. Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Yasuda K, Miyabe Y, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna T. Physical functions, health-related outcomes, nutritional status, and blood markers in community-dwelling cancer survivors aged 75 years and older. *Asian Pacific Journal of Cancer Prevention*, 15(7):3305-3310, 2014.
2. Taniguchi Y, Shinkai S, Nishi M, Murayama H, Nofuji Y, Yoshida H, Fujiwara Y: Nutritional Biomarkers and Subsequent Cognitive Decline Among Community-Dwelling Older Japanese: A Prospective Study. *Journals of Gerontology: A Biological Science & Medical Science*, 69(10):1276-83, 2014.
3. Atomi T, Noriuchi M, Oba K, Atomi Y, Kikuchi Y. Self-Recognition of One's Own Fall Recruits the Genuine Bodily Crisis-Related Brain Activity. *PLOS ONE*, 19;9(12):e115303, 2014.
4. Shimizu M, Oguro-Ando A, Ohto-Fujita E, Atomi Y. Toll-interacting protein pathway: Degradation of an ubiquitin-binding protein. *Methods in Enzymology*, 534:323-330, 2014.
5. 野藤悠, 新開省二, 吉田裕人, 西真理子, 天野秀紀, 村山洋史, 谷口優, 成田美紀, 松尾恵理, 深谷太郎, 藤原佳典, 干川なつみ, 土屋由美子. 介護予防評価における介護保険統計の有用性と限界～草津町介護予防 10 年間の評価分析を通して～. *厚生指標*, 61(12), 28-35, 2014.
6. 清野諭, 谷口優, 吉田裕人, 藤原佳典, 天野秀紀, 深谷太郎, 西真理子, 村山洋史, 野藤悠, 松尾恵理, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二. 群馬県草津町における介護予防 10 年間の取り組みと地域高齢者の身体, 栄養, 心理・社会機能の変化. *日本公衆衛生雑誌*, 61(6), 286-298, 2014.
7. 跡見順子. 「人間」のいのち(細胞)を生かす身心一体科学 ～「元気な日本の新生」を担う女性と身体・運動・スポーツ～. *女子体育*, 56(8・9):26-31, 2014.

平成 27 年度

(主任研究者)

1. Makizako H, Shimada H, Doi T, Tsutsumimoto K, Lee S, Suzuki T. Onset of disability by mild cognitive impairment subtype among community-dwelling older adults in Japan. *J Am Geriatr Soc*, 63(9):1959-1961, 2015.
2. Doi T, Shimada H, Park H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Nakakubo S, Hotta R, Suzuki T. Cognitive function and falling among older adults with mild cognitive impairment and slow gait. *Geriatr Gerontol Int*, 15(8):1073-1078, 2015.
3. Makizako H, Liu-Ambrose T, Shimada H, Doi T, Park H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Suzuki T. Moderate-intensity physical activity, hippocampal volume, and memory in older adults with mild cognitive impairment. *J Gerontol A Biol Sci Med Sci*, 70(4): 480-486, 2015.
4. Ihira H, Furuna T, Mizumoto A, Makino K, Saitoh S, Ohnishi H, Shimada H, Makizako H. Subjective physical and cognitive age among community-dwelling older people aged 75 years and older: differences with chronological age and its associated factors. *Aging & Mental Health*, 19(8): 756-761, 2015.
5. Harada K, Lee S, Park H, Shimada H, Makizako H, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Uemura K, Suzuki T. Going outdoors and cognitive function among community-dwelling older adults: Moderating role of physical function. *Geriatr Gerontol Int*, 2015 Jan 17. [Epub ahead of print]
6. Uemura K, Doi T, Shimada H, Makizako H, Park H, Suzuki T. Age-related changes in prefrontal oxygenation during memory encoding and retrieval. *Geriatr Gerontol Int*. 2015
7. Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T. Mild Cognitive Impairment, Slow Gait, and Risk of Disability: A Prospective Study. *Journal of the American Medical Directors Association*, 16(12): 1082- 1086, 2015
8. Doi T, Shimada H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Suzuki T. ApolipoproteinE genotype and physical function among older people with mild cognitive impairment. *Geriatr Gerontol Int*, 15(4): 422-7, 2015.
9. Lee S, Shimada H, Park H, Makizako H, Lee S, Doi T, Yoshida D, Tsutsumimoto K, Anan Y, Suzuki T. The Association Between Kidney Function and Cognitive Decline in Community-Dwelling, Elderly Japanese People. *J Am Med Dir Assoc*, 16(4): 349.e1-5, 2015.
10. Hotta R, Doi T, Shimada H, Makizako H, Yoshida D, Anan Y, Tsutsumimoto K, Uemura K, Park H, Suzuki T. Cigarette smoking and cognitive health in elderly Japanese. *Am J Health Behav*, 39(3): 294-300, 2015

(分担研究者)

1. Makino K, Ihira H, Mizumoto A, Shimizu K, Ishida T, Furuna T. Associations between the settings of exercise habits and health-related outcomes in community-dwelling older adults. *Journal of Physical Therapy Science*, 27(7):2207-11, 2015

2. Mizumoto A, Ihira H, Makino K, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna T. Physical activity changes in the winter among old-old persons living in northern Japan: a prospective study. *BMC geriatrics*, 10;15:43, 2015
3. Ihira H, Furuna T, Mizumoto A, Makino K, Saitoh S, Ohnishi H, Shimada H, Makizako H. Subjective physical and cognitive age among community-dwelling older people aged 75 years and older: differences with chronological age and its associated factors. *Aging & Mental Health*, 13: 1-6, 2014
4. Mizumoto A, Ihira H, Makizako H, Yasuda K, Makino K, Ohguni M, Furuna T. Association between Hip Walking and Physical Fitness in the Elderly of a Community Setting. *Anthropological Science*, 122(1): 1-6, 2014
5. Kim H, Yoshida H, Hu X, Saito K, Yoshida Y, Kim M, Hirano H, Kojima N, Hosoi E, Suzuki T. Association between self-reported urinary incontinence and musculoskeletal conditions in community-dwelling elderly women: A cross-sectional study. *Neurourol Urodyn*, 34(4):322-326, 2015
6. 桜井良太、河合恒、深谷太郎、吉田英世、金憲経、平野浩彦、鈴木宏幸、大淵修一、藤原佳典：地域在住高齢者における自転車関連事故発生率とその傷害率：潜在的傷害事故の把握に向けた検討. *日本公衛誌*, 62(5):251-258, 2015
7. Kojima N, Kim M, Saito K, Yoshida H, Yoshida Y, Hirano H, Obuchi S, Shimada H, Suzuki T, Kim H. Lifestyle-related factors contributing to decline in knee extension strength among elderly women: A cross-sectional and longitudinal cohort study. *PLoS One*, 10(7):e0132523, 2015
8. Kim M, Yoshida H, Sasai H, Kojima N, Kim H: Association between objectively measured sleep quality and physical function among community-dwelling oldest old Japanese: A cross-sectional study. *Geriatr Gerontol Int*. 15(8):1040-1048, 2015
9. Shimizu Y, Kim H, Yoshida H, Shimada H, Suzuki T. Serum 25-hydroxyvitamin D level and risk of falls in Japanese community-dwelling elderly women: a 1-year follow-up study. *Osteoporos Int*, 26(8):2185-92, 2015
10. Suzuki H, Kawai H, Hirano H, Yoshida H, Ihara K, Kim H, Chaves PH, Minami Y, Yasunaga M, Obuchi S, Fujiwara Y. One-year change in the Japanese version of the Montreal Cognitive Assessment performance and related predictors in community-dwelling older adults. *J Am Geriatr Soc*, 63(9):1874-1879, 2015
11. Kim H, Suzuki T, Saito K, Kojima N, Hosoi E, Yoshida H. Long-term effects of exercise and amino acid supplementation on muscle mass, physical function and falls in community-dwelling elderly Japanese sarcopenic women: A 4-year follow-up study. *Geriatr Gerontol Int*, 16(2):175-81, 2016
12. Shinkai S, Yoshida H, Taniguchi Y, Murayama H, Nishi M, Amano H, Nofuji Y, Seino S,

- Fujiwara Y: Public health approach to preventing frailty in the community and its effect on healthy aging in Japan. *Geriatr Gerontol Int*, 16 (Suppl. 1): 87-97, 2016
13. 西真理子, 吉田裕人, 藤原佳典, 深谷太郎, 天野秀紀, 熊谷修, 渡辺修一郎, 村山洋史, 谷口優, 野藤悠, 干川なつみ, 土屋由美子, 新開省二. 高齢者向けの集団健診が余命および健康余命に及ぼす影響 – 草津町介護予防事業 10 年間の効果評価の試み –. *厚生*の指標, 63(2), 2-11, 2016
 14. 長谷部雅美, 小池高史, 野中久美子, 深谷太郎, 李暲娥, 村山幸子, 渡邊麗子, 植木章三, 吉田裕人, 松本真澄, 川崎千恵, 二瓶美里, 田中千晶, 亀井智子, 渡辺修一郎, 藤原佳典. 一人暮らし高齢者における見守りセンサーを用いた在宅生活支援に関する検討. *老年社会科学*, 38(1), 66-77, 2016
 15. Ishii S, Tanaka T, Ouchi Y, Akishita M, Iijima K. Development of conversion formulae between 4-m, 5-m and 6-m gait speed. *Geriatr Gerontol Int*, 15:233-4, 2015
 16. Ishii S, Tanaka T, Akishita M, Iijima K. Re: Growing research on sarcopenia in Asia. *Geriatr Gerontol Int*, 15:238-9, 2015
 17. Kuroda A, Tanaka T, Hirano H, Ohara Y, Kikutani T, Furuya H, Obuchi SP, Kawai H, Ishii S, Akishita M, Tsuji T, Iijima K. Eating Alone as Social Disengagement is Strongly Associated With Depressive Symptoms in Japanese Community-Dwelling Older Adults. *J Am Med Dir Assoc*. 2015;16:578-85.
 18. Shibasaki K, Ogawa S, Yamada S, Iijima K, Eto M, Kozaki K, Toba K, Ouchi Y, Akishita M. Favorable Effect of Sympathetic Nervous Activity on Rehabilitation Outcomes in Frail Elderly. *J Am Med Dir Assoc*. 2015;16:799.e7-799.e12.
 19. Seino S, Shinkai S, Iijima K, Obuchi S, Fujiwara Y, Yoshida H, Kawai H, Nishi M, Murayama H, Taniguchi Y, Amano H, Takahashi R. Reference Values and Age Differences in Body Composition of Community-Dwelling Older Japanese Men and Women: A Pooled Analysis of Four Cohort Studies. *PLoS One*, 6;10(7):e0131975. 2015
 20. Htun NC, Ishikawa-Takata K, Kuroda A, Tanaka T, Kikutani T, Obuchi SP, Hirano H, Iijima K. Screening for malnutrition in community dwelling older Japanese: preliminary development and evaluation of the Japanese Nutritional Risk Screening Tool (NRST). *J Nutr Health Aging*, 20(2):114-20, 2015
 21. 飯島勝矢. 虚弱・サルコペニア予防における医科歯科連携の重要性: ~新概念『オーラル・フレイル』から高齢者の食力の維持・向上を目指す~ Upstream preventive strategy for age-related sarcopenia in the elderly: Why do the elderly fall into inadequate nutrition? *Ann Jpn Prosthodont Soc* 7 : 92-101, 2015.
 22. 神崎恒一. 認知症高齢者の転倒と骨折. *Dementia Japan*, 29(4): 560-570, 2015.

2. 学会発表

平成 25 年度

(主任研究者)

1. Shimada H. Non-pharmacological therapy for MCI: a rct of exercise and cognitive stimulation. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 25, 2013.
2. Suzuki T, Yoshida D, Makizako H, Park H, Lee S, Shimada H. Intervention trial for prevention of cognitive decline among the community elderly in japan. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 25, 2013.
3. Suzuki T, Shimada H., Suzukawa M, Makizako H, Tsutsumimoto K, Anan Y, Doi T, Yoshida D, Uemura K, Ito T, Lee S, Park H. National study of performance-based assessments and personal care in Japanese older people. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 25, 2013.
4. Doi T, Shimada H., Makizako H, Park H, Lee S, Tsutsumimoto K, Uemura K, Yoshida D, Anan Y, Ito T, Suzuki T. Apolipoprotein E and Physical Function among Older People with Mild Cognitive Impairment. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 25, 2013.
5. Tsutsumimoto K, Doi T, Shimada H., Makizako H, Yoshida D, Anan Y, Uemura K, Lee S, Park H, Suzuki T. Self-reported Exhaustion among Older Adults with Mild Cognitive Impairment; Physical Function, Physical Activity Life Space. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June 26, 2013.
6. Doi T, Shimada H., Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Anan Y, Nakakubo S, Suzuki T. Gait Ability and Cognitive Function Among Older Adults With Mild Cognitive Impairments. Alzheimer's Association International Conference 2013, Boston, USA, July 13-18, 2013.
7. 土井剛彦, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 堤本広大, 上村一貴, 朴眩泰, 李相侖, 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 軽度認知障害を有する高齢者における dual-task 歩行能力と前頭前野内の灰白質. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
8. 堤本広大, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 上村一貴, 阿南祐也, 伊藤忠, 李相侖, 朴眩泰, 鈴木隆雄. グループ単位の運動介入実施により軽度認知障害を有する高齢者の QOL は向上するのか? —ランダム化比較試験による検討—. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
9. 上村一貴, 大矢敏久, 東口大樹, 高橋秀平, 土井剛彦, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 内山靖. 軽度認知障害高齢者では選択的注意課題に対するステップ反応分析で転倒リスクが顕在化する. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
10. 李相侖, 島田裕之, 朴眩泰, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 軽度認知障害を有する高齢者を対象とした社会活動の検討. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.

11. 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, Brach Jennifer, 朴眩泰, 李相侖, 鈴木隆雄. 日本語版—改訂 Gait Efficacy Scale の信頼性および妥当性. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
12. 波戸真之介, 林悠太, 石本麻友子, 今田樹志, 小林修, 秋野徹, 鈴木芽久美, 島田裕之. 要介護高齢者における認知機能の低下が運動機能の変化に及ぼす影響の検討. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
13. 石本麻友子, 林悠太, 鈴木芽久美, 波戸真之介, 今田樹志, 小林修, 秋野徹, 島田裕之. 世帯構成からみた要介護高齢者の心身機能の特徴. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
14. 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 吉田大輔, 堤本広大, 阿南祐也, 上村一貴, 伊藤忠, 朴眩泰, 李相侖, 鈴木隆雄. 高齢者における脳由来神経栄養因子の加齢変化と認知機能との関係. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
15. 朴眩泰, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 上村一貴, 李相侖, 吉田大輔, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 軽度認知障害を有する高齢者における睡眠と日常身体活動との関連. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
16. 秋野徹, 波戸真之介, 鈴木芽久美, 林悠太, 石本麻友子, 今田樹志, 小林修, 島田裕之. 要介護高齢者の介護度の悪化に影響を及ぼす要因の検討～4212 名を対象とした 2 年間の追跡調査～. 第 48 回日本理学療法学会大会, 名古屋, 2013 年 5 月.
17. 波戸真之介, 鈴木芽久美, 林悠太, 石本麻友子, 石井宏二, 島田裕之. 要支援高齢者と軽度要介護高齢者の判別に影響を与える要因. 第 8 回日本応用老年学会大会, 札幌, 2013 年 11 月.

(分担研究者)

1. Furuna T, Mizumoto A, Ihira H, Yasuda K, Makino K, Sasaki T, Miyabe Y, Akanuma T, Yokoyama K, Shimada H, Saito S, Ohnishi H, Yasumura S, Suzuki T. Influence of homebound on physical and cognitive functions living in a snow-full area in Hokkaido. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June, 2013
2. Ihira H, Mizumoto A, Yasuda K, Maikno K, Miyabe Y, Ohnishi H, Saitoh S, Akanuma T, Yasumura S, Suzuki T, Furuna T. Characteristic of physical functions and health-related indexes in community-dwelling older aged above 75 years with history of cancer. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June, 2013
3. Mizumoto A, Ihira H, Yasuda K, Makino K, Miyabe Y, Saitoh S, Ohnishi H, Suzuki T, Yasumura S, Furuna T. Associations between stages of change for exercise and physical function and physical activity in community-dwelling old-old people. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul, Korea, June, 2013
4. 吉田英世, 金憲経, 小島成実, 吉田祐子, 齋藤京子, 金美芝, 平野浩彦, 岩佐一, 島

田裕之、鈴木隆雄. 地域在住高齢者の基礎的運動能力からみた要介護化の危険因子の検討. 第 72 回日本公衆衛生学会総会, 三重, 2013 年 10 月

5. 増井幸恵, 稲垣宏樹, 吉田祐子, 岩佐一, 吉田英世, 菊地和則, 吉田裕人, 野中久美子, 島田裕之, 大塚理, 鈴木隆雄. 現代高齢者生活特性に配慮した新たな活動能力指標の開発 (その 3). 第 28 回日本老年社会学会大会, 大阪, 2013 年 6 月
6. 稲垣宏樹, 増井幸恵, 吉田祐子, 岩佐一, 吉田英世, 菊地和則, 吉田裕人, 野中久美子, 島田裕之, 大塚理加, 鈴木隆雄. 現代高齢者生活特性に配慮した新たな活動能力指標の開発 (その 4). 第 28 回日本老年社会学会大会, 大阪, 2013 年 6 月
7. 野藤悠, 西真理子, 成田美紀, 吉田裕人, 天野秀紀, 村山洋史, 谷口優, 深谷太郎, 藤原佳典, 新開省二, 地域高齢者における虚弱の疫学研究 (3) 虚弱の予測因子. 第 28 回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2013 年 6 月
8. 西真理子, 吉田裕人, 野藤悠, 天野秀紀, 谷口優, 村山洋史, 成田美紀, 藤原佳典, 深谷太郎, 新開省二. 地域高齢者における虚弱の疫学研究 (4) 老年症候群と虚弱との関連. 第 28 回日本老年医学会学術集会, 大阪, 2013 年 6 月
9. Yu Nofuji, Hiroto Yoshida, Mariko Nishi, Hiroshi Murayama, Hidenori Amano, Yu Taniguchi, Eri Matsuo, Taro Fukaya, Yoshinori Fujiwara, Shoji Shinkai. A 10-YEAR Community Intervention for Frailty Prevention and Its Impact upon Healthy Aging in Japan. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul Korea, June, 2013
10. Hiroto Yoshida, Yoshinori Fujiwara, Mariko Nishi, Taro Fukaya, Shoji Sshinkai. Impact of Self-Rated Health on Medical and Care Cost in Older Japanese. The 20th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Seoul Korea, June, 2013

平成 26 年度

(主任研究者)

1. Shimada H, Makizako H, Doi T, Park H, Tsutsumimoto K, Suzuki T. Effects of Multicomponent Exercise in the Older Adults with Mild Cognitive Impairment. 2014 Alzheimer's Association International Conference, Copenhagen, Denmark, July, 2014
2. Doi T, Shimada H, Park H, Makizako H, Tsutsumimoto K, Uemura K, Hotta R, Nakakubo S, Suzuki T. Slow gait, mild cognitive impairment and fall: obu study of health promotion for the elderly. 2014 ISPGR World Congress, Vancouver BC, Canada, June, 2014
3. 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 朴眩泰, 堤本広大, 鈴木隆雄. 健忘型軽度認知障害高齢者に対する複合的運動プログラムの効果検証. 第 4 回日本認知症予防学会学術集会, 東京, 2014 年 9 月
4. 牧迫飛雄馬, Teresa Liu-Ambrose, 島田裕之, 土井剛彦, 朴眩泰, 堤本広大, 上村一貴, 鈴木隆雄. 軽度認知障害を有する高齢者における身体活動, 海馬容量, 記憶の相互関連性.

第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月

5. 李相侖, 島田裕之, 朴眩泰, 牧迫飛雄馬, 阿南祐也, 土井剛彦, 吉田大輔, 林悠太, 波戸真之介, 堤本広大, 上村一貴, 鈴木隆雄. 要支援, 要介護認定者を対象とした新しい IADL スケール開発の検討. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
6. 堀田亮, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 上村一貴, 堤本広大, 阿南祐也, 李相侖, 朴眩泰, 中窪翔, 鈴木隆雄. 地域在住高齢者における生活習慣と認知機能の関係. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
7. 林悠太, 波戸真之介, 小林修, 今田樹志, 秋野徹, 鈴木芽久美, 島田裕之. 要支援高齢者の重度化に関連する運動機能について—大規模集団での横断研究—. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
8. 李成喆, 島田裕之, 朴眩泰, 李相侖, 吉田大輔, 土井剛彦, 上村一貴, 堤本広大, 阿南祐也, 伊藤忠, 原田和弘, 堀田亮, 裴成琉, 牧迫飛雄馬, 鈴木隆雄. 地域在住の高齢者を対象としたクレアチニンとうつ症状および認知機能との関連. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
9. 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 朴眩泰, 吉田大輔, 堤本広大, 上村一貴, 阿南祐也, 鈴木隆雄. 軽度認知機能障害と運動機能低下は相互作用により転倒との関連性が強くなるのか?—歩行解析と認知機能評価による検討—. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
10. 原田和弘, 島田裕之, 朴眩泰, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 李相侖, 吉田大輔, 堤本広大, 阿南祐也, 李成喆, 堀田亮, 裴成琉, 中窪翔, 上村一貴, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 地域在住高齢者における外出頻度と認知機能との関係 運動器機能による差異. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
11. 小林修, 林悠太, 鈴木芽久美, 波戸真之介, 今田樹志, 秋野徹, 島田裕之. 要支援・要介護高齢者における世帯構造と生活機能との関連. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
12. 朴眩泰, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 李相侖, 土井剛彦, 阿南祐也, 堤本広大, 原田和弘, 李成喆, 堀田亮, 裴成琉, 上村一貴, 中窪翔, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 虚弱高齢者の日常身体活動および行動特性と骨健康との関連性. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
13. 吉田大輔, 島田裕之, 朴眩泰, 阿南祐也, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 地域高齢者における血清 IGF1 と全身筋量との関連. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
14. 上村一貴, 東口大樹, 高橋秀平, 島田裕之, 内山靖. 軽度認知障害高齢者では注意負荷を伴うステップ反応動作において予測的姿勢調節の時間および潜在的エラーが増加する. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
15. 中窪翔, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 上村一貴, 堤本広大, 阿南祐也, 李相侖, 朴眩泰, 小野玲, 鈴木隆雄. 地域在住高齢者における睡眠関連因子と歩行指標

- との関係. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
16. 井平光, 古名丈人, 水本淳, 牧野圭太郎, 島田裕之, 牧迫飛雄馬. 75 歳以上の地域在住高齢者における主観的な体力年齢と認知年齢に関連する要因. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
 17. 波戸真之介, 鈴川芽久美, 林悠太, 今田樹志, 小林修, 秋野徹, 島田裕之. 要支援から要介護状態への移行に影響を及ぼす運動機能の検討 1218 名における 2 年間の追跡調査. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
 18. 伊藤忠, 島田裕之, 吉田大輔, 朴眩泰, 阿南祐也, 牧迫飛雄馬, 久保晃, 鈴木隆雄. 高齢者における歩行効率と生活空間との関連. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
 19. 堤本広大, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 吉田大輔, 阿南祐也, 上村一貴, 堀田亮, 中窪翔, 朴眩泰, 鈴木隆雄. 自覚的疲労感と機能低下との関係 —高齢期における年代別にみた特徴—. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
 20. 島田裕之, 朴眩泰, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 李相侖, 吉田大輔, 堤本広大, 阿南祐也, 李成喆, 堀田亮, 原田和弘, 裴成琉, 中窪翔, 上村一貴, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 高齢者におけるうつ症状と認知機能 BDNF と脳萎縮との関係. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 6 月
 21. 今田樹志, 鈴川芽久美, 波戸真之介, 林悠太, 小林修, 秋野徹, 島田裕之. 公共交通機関を利用して外出できる要支援及び軽度要介護高齢者の心身機能の特徴. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 6 月
 22. 裴成琉, 島田裕之, 朴眩泰, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 李相侖, 吉田大輔, 堤本広大, 阿南祐也, 李成喆, 堀田亮, 原田和弘, 中窪翔, 上村一貴, 伊藤忠, 鈴木隆雄. 日本の高齢者におけるメタボリックシンドロームと認知機能との関係. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 6 月

(分担研究者)

1. Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Furuna T. Association between fall history and subjective age among community-dwelling older people aged 75 and older. 9th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation cum 21st Annual Congress of Gerontology, Kowloon, Hong Kong, November, 2014
2. Makino K, Ihira H, Mizumoto A, Ishida T, Shimizu K, Furuna T. Factors relate to daily step in community-dwelling older people aged 75 and older. 9th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation cum 21st Annual Congress of Gerontology, Kowloon, Hong Kong, November, 2014
3. Mizumoto A, Ihira H, Makino K, Miyabe Y, Ishida T, Shimizu K, Akanuma T, Yokoyama K, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna T. The factors in association with the aggravation of the depression

mood during the winter season among old-old people in the snowy area. WPA Section on Epidemiology and Public Health Meeting, Nara, Japan, October, 2014

4. 水本 淳, 赤沼 智美, 横山 香理, 古名 丈人. 積雪寒冷地域に在住する後期高齢女性に対する冬期間の身体活動量を高める介入の効果. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014 年 11 月
5. 井平 光, 古名 丈人, 水本 淳, 牧野 圭太郎, 島田 裕之, 牧迫 飛雄馬. 75 歳以上の地域在住高齢者における主観的な体力年齢と認知年齢に関連する要因. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
6. 志水 宏太郎, 佐々木 健史, 井平 光, 水本 淳, 牧野 圭太郎, 古名 丈人. 計算課題と語想起課題が地域在住後期高齢者の二重課題歩行に及ぼす影響の比較. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
7. 安田 圭佑, 井平 光, 水本 淳, 牧野 圭太郎, 宮部 瑤子, 古名 丈人. 積雪寒冷地域に在住する後期高齢者における冬期間の外出行動と身体機能および生活機能との関係. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
8. 村瀬 裕志, 古名 丈人, 井平 光, 水本 淳, 牧野 圭太郎. 疼痛を有する後期高齢者の身体活動量と活動強度の特性. 第 49 回日本理学療法学会大会, 横浜, 2014 年 5 月
9. 吉田英世, 金憲経, 吉田祐子, 小島成美, 金美芝, 清水容子, 平野浩彦, 鈴木隆雄. 地域在住高齢者における骨粗鬆症 (低骨量) が動脈硬化性疾患の発症に及ぼす影響. 第 16 回日本骨粗鬆症学会, 東京, 2014 年 10 月
10. 吉田英世, 井原一成, 島田裕之, 吉田祐子, 小島成美, 金美芝, 平野浩彦, 金憲経, 長谷川千絵, 飯田浩毅, 天野雄一, 端詰勝敬, 蜂須貢. 地域高齢者の脳神経由来栄養因子の血清濃度はうつ病発症後低下する. 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 宇都宮, 2014 年 11 月
11. Hiroto Yoshida, Shouzou Ueki, Jinro Takato, Go Inuzuka, Naoko Arayama, Hiroshi Haga. Impact of "Standing up from a Long Sitting Position on the Floor" on Medical expenditures in Older Japanese Population. The 67th Gerontological Society of America Annual Meeting, Washington DC, USA, November, 2014
12. Atomi Y, Atomi T, Tanaka K, Hirose N, Shimizu M, Koyama Y, Suzuki H. Tactile information from special underwear improves sitting posture of upper body both at rest and computer work. Annual Meeting of Soc for Neurosci (SfN) 2014, Washington DC, USA, 2014.11.15-19.
13. Atomi Y, Atomi T, Tanaka K, Hirose N, Shimizu M, Koyama Y, Suzuki H. Improved sitting posture of upper body at rest and working personal computer induced by tactile information via closing special underwear. 2014 Int Soc Posture Gait Res (ISPGR) World Congress, Vancouver, Canada, June, 2014
14. 藤田恵理, 清水美穂, 跡見綾, 栗本大嗣, 跡見順子. 未病のための生命科学教育の実践例と日米教科書比較から見えてくる課題. 第 21 回未病システム学会学術総会, 豊中,

2014年11月

15. 田中和哉, 跡見友章, 廣瀬昇, 小山由朗, 鈴木英俊, 清水美穂, 跡見順子. 機能性未病ウェアによる姿勢制御パターンの改善効果について. 第21回未病システム学会学術総会, 豊中, 2014年11月
16. 畠山望, 桜井隆史, 廣瀬昇, 跡見友章, 清水美穂, 跡見順子. 低速歩行時の心拍揺らぎパワースペクトルから直立二足歩行適応の個人差を呼吸に着目して考える. 第21回未病システム学会学術総会, 豊中, 2014年11月
17. 小川清貴, 畠山望, 跡見友章, 廣瀬昇, 田中和哉, 清水美穂, 跡見順子. 「能動的な制御」を必要とする低負荷有酸素運動マシンの開発と評価の試み: 心拍ゆらぎスペクトル分析から. 第21回未病システム学会学術総会, 豊中, 2014年11月
18. 長谷川克也, 跡見友章, 田中和哉, 廣瀬昇, 清水美穂, 跡見順子. 歩行時の力学的重心位置の計測による未病へのアプローチ. 第21回未病システム学会学術総会, 豊中, 2014年11月
19. 跡見友章, 田中和哉, 廣瀬昇, 小山由朗, 鈴木英俊, 清水美穂, 跡見順子. 立位・歩行動作における機能性未病ウェアの効果について. 第21回未病システム学会学術総会, 豊中, 2014年11月
20. 小川清貴, 畠山望, 跡見友章, 廣瀬昇, 田中和哉, 清水美穂, 跡見順子. 一定の心拍数を維持するサイクリング運動中の心拍揺らぎパワースペクトル: 自発的制御と受動的制御による比較. 日本宇宙生物科学会第28回大会, 大阪, 2014年9月
21. 畠山望, 跡見友章, 廣瀬昇, 田中和哉, 長谷川克也, 酒井元気, 清水美穂, 跡見順子. 低速歩行時の心拍揺らぎパワースペクトル解析: 呼吸とバランスに着目して. 日本宇宙生物科学会第28回大会, 大阪, 2014年9月
22. 跡見友章, 田中和哉, 廣瀬昇, 小山由朗, 鈴木英俊, 清水美穂, 跡見順子. 立位・歩行動作における機能性ウェアの抗重力効果について. 日本宇宙生物科学会第28回大会, 大阪, 2014年9月
23. 田中和哉, 跡見友章, 廣瀬昇, 小山由朗, 鈴木英俊, 清水美穂, 跡見順子. 機能性ウェアによる姿勢制御パターンの改善効果について. 日本宇宙生物科学会第28回大会, 大阪, 2014年9月
24. 跡見順子, 跡見友章, 田中和哉, 廣瀬昇, 清水美穂, 小山由朗, 鈴木英俊. 安静およびコンピュータ作業中において特殊下着からの僅かな刺激が良い反射をもたらすバランスのとれた上半身姿勢をつくる. 第37回日本神経科学大会, 横浜, 2014年9月
25. 田中和哉, 廣瀬昇, 跡見友章, 長谷川克也, 清水美穂, 跡見順子. 片脚立位時における上半身姿勢制御戦略の左右差が重心動揺に及ぼす影響. 第49回理学療法学術大会, 横浜, 2014年5月

平成 27 年度

(主任研究者)

1. Shimada H. A Scheme for Preventing Dementia in the Community. The 1st NCGG-ICAH Symposium, Session1 Geriatrics and Epidemiology, Obu, June, 2015
2. Shimada H., Doi T, Lee S, Makizako H, Tsutsumimoto K. Which types of cognitive function are related to atrophy of the bilateral medial temporal areas? Organization for Human Brain Mapping Conference 2015, Honolulu, Hawaii, June, 2015
3. 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 土井剛彦, 堤本広大, 中窪翔. 4 認知症予防のための運動効果とこれからの課題. 第 50 回日本理学療法学会大会, 文科学会シンポジウム 9 (日本予防理学療法学会), 東京, 2015 年 6 月
4. 上村一貴, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 堤本広大, 李相侖, 梅垣宏行, 葛谷雅文, 鈴木隆雄. 軽度認知障害と転倒経験が 15 か月後の転倒恐怖感の新規発生リスクに及ぼす相乗効果 —前向きコホート研究—. 第 50 回日本理学療法学会大会, 東京, 2015 年 6 月
5. 牧野圭太郎, 井平光, 水本淳, 石田豊朗, 志水宏太郎, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 古名丈人. 地域在住後期高齢女性の認知機能が 1 年後の外出頻度に及ぼす影響. 第 50 回日本理学療法学会大会, 東京, 2015 年 6 月
6. 中窪翔, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 堤本広大, 堀田亮, 李相侖, 李成喆, 裴成琉, 原田和弘, 原田健次, 鈴木隆雄. 睡眠障害と身体活動の相乗作用が認知機能に与える影響. 第 50 回日本理学療法学会大会, 東京, 2015 年 6 月
7. 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 土井剛彦, 李相侖, 堤本広大, 中窪翔, 李成喆, 堀田亮, 原田和弘, 裴成琉, 原田健次. MCI と転倒との関係. 第 50 回日本理学療法学会大会, 東京, 2015 年 6 月
8. 志水宏太郎, 井平光, 水本淳, 牧野圭太郎, 石田豊朗, 島田裕之, 古名丈人. 地域在住高齢者の活動習慣や食品摂食習慣と認知機能との関連性. 第 50 回日本理学療法学会大会, 東京, 2015 年 6 月
9. 島田裕之. 非薬物療法 (特に運動) の視点からの認知症予防. 第 57 回日本老年医学会学術集会, シンポジウム 2 認知症予防の新展開, 横浜, 2015 年 6 月
10. 原田和弘, 李相侖, 島田裕之, 李成喆, 裴成琉, 阿南祐也, 原田健次, 鈴木隆雄. 地域在住高齢者の認知機能検査の受診を予測する行動科学的要因. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015 年 6 月
11. 堀田亮, 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 堤本広大, 中窪翔, 上村一貴, 鈴木隆雄. 打楽器による音楽演奏介入が地域在住高齢者の認知機能変化に及ぼす効果. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015 年 6 月
12. 土井剛彦, 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 堤本広大, 中窪翔, 鈴木隆雄. 新規要介護認定発生に対する軽度認知障害と歩行速度の関係. 第 57 回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015

年6月

13. 島田裕之, 牧迫飛雄馬, 李相侖, 土井剛彦, 堤本広大, 鈴木隆雄. 認知機能の低下と運動状況. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月
14. 裴成琉, 原田健次, 李相侖, 李成喆, 原田和弘, 島田裕之, 鈴木隆雄. 高齢者における認知機能低下が記憶過程の方略と脳活動に及ぼす影響—fMRI研究—. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月
15. 原田健次, 裴成琉, 李相侖, 李成喆, 原田和弘, 島田裕之, 鈴木隆雄. 認知機能が低下した高齢者における日常の身体活動強度の違いによる白質構造の違い. 第57回日本老年医学会学術集会, 横浜, 2015年6月

(分担研究者)

1. 井平光, 牧野圭太郎, 木原由里子, 石田豊朗, 志水宏太郎, 伊藤一成, 山口亨, 水本淳, 古名丈人. 地域在住高齢がんサバイバーにおける身体活動と食品摂食習慣との関連性. 第5回日本がんリハビリテーション研究会, 神戸, 2016年1月
2. 井平光, 石田豊朗, 志水宏太郎, 山口亨, 伊藤一成, 木原由里子, 牧野圭太郎, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 古名丈人. 地域在住高齢がんサバイバーにおける罹患年数の違いによる心身機能の比較. 第2回日本地域理学療法学会学術集会, 千葉, 2015年12月
3. 井平光, 牧野圭太郎, 木原由里子, 石田豊朗, 志水宏太郎, 伊藤一成, 山口亨, 赤沼智美, 横山香理, 牧迫飛雄馬, 古名丈人. 地域在住高齢がんサバイバーの罹患年数の違いによる健康関連QOLと認知機能の比較. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
4. 山口亨, 井平光, 水本淳, 赤沼智美, 横山香理, 牧迫飛雄馬, 古名丈人. 積雪寒冷地域の後期高齢転倒者の身体的特徴. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
5. 井平光, 水本淳, 牧野圭太郎, 石田豊明, 志水宏太郎, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 古名丈人. 75歳以上の地域在住高齢がんサバイバーにおける心身機能の特徴. —運動機能、認知機能、および健康関連指標の比較—第50回日本理学療法学会学術大会, 東京, 2015年6月
6. 牧野圭太郎, 井平光, 水本淳, 石田豊明, 志水宏太郎, 牧迫飛雄馬, 島田裕之, 古名丈人. 地域在住後期高齢女性の認知機能が1年後の外出頻度に及ぼす影響. 第50回日本理学療法学会学術大会, 東京, 2015年6月
7. 志水宏太郎, 井平光, 水本淳, 牧野圭太郎, 石田豊明, 島田裕之, 古名丈人. 地域在住高齢者の活動習慣や食品摂取習慣と認知機能との関連性. 第50回日本理学療法学会学術大会, 東京, 2015年6月
8. Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Ishida T, Shimizu K, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna T. Characteristics of social function, exercise behaviors, health-related outcome and nutrition status in community-dwelling cancer survivors aged 65 years and older. World Confederation for Physical Therapy congress 2015, Singapore, May, 2015
9. Mizumoto A, Ihira H, Makino K, Miyabe Y, Ishida T, Shimizu K, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna

- T. Hip walking performance predicts the fall one year later in community dwelling old-old women. World Confederation for Physical Therapy congress 2015, Singapore, May, 2015
10. Makino K, Ihira H, Mizumoto A, Ishida T, Shimizu K, Furuna T. Association between group exercise and exercise self-efficacy in community-dwelling older people. World Confederation for Physical Therapy congress 2015, Singapore, May, 2015
 11. Ishida T, Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Shimizu K, Furuna T. Relationship between fear of falling and cognitive function in community-dwelling elderly adults. World Confederation for Physical Therapy congress 2015, Singapore, May, 2015
 12. Shimizu K, Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Ishida T, Shimada H, Furuna T. Relationship between dietary habits and cognitive function among community-dwelling elderly adults. World Confederation for Physical Therapy congress 2015, Singapore, May, 2015
 13. Ihira H, Mizumoto A, Makino K, Furuna T. Association between fall history and subjective age among community-dwelling older people aged 75 and older. 9th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation cum 21st Annual Congress of Gerontology, Kowloon, Hong Kong, November, 2014
 14. Makino K, Ihira H, Mizumoto A, Ishida T, Shimizu K, Furuna T. Factors relate to daily step in community-dwelling older people aged 75 and older. 9th Pan-Pacific Conference on Rehabilitation cum 21st Annual Congress of Gerontology, Kowloon, Hong Kong, November, 2014
 15. Mizumoto A, Ihira H, Makino K, Miyabe Y, Ishida T, Shimizu K, Akanuma T, Yokoyama K, Saitoh S, Ohnishi H, Furuna T. The factors in association with the aggravation of the depression mood during the winter season among old-old people in the snowy area. WPA Section on Epidemiology and Public Health Meeting, Nara, Japan, October, 2014
 16. Ihira H, Furuna T, Mizumoto A, Makino K, Makizako H, Shimada H. Subjective physical and cognitive age among community-dwelling older people aged 75 and older: difference with chronological age and its associated factors, Alzheimer's Association International Conference, Copenhagen, Denmark, July, 2014
 17. 高城大輔, 平野浩彦, 渡邊裕, 枝広あや子, 小原由紀, 白部麻樹, 大淵修一, 吉田英世, 藤原佳典, 河合恒, 金憲経, 井原一成, 弘中祥司. 地域在住高齢者の食欲減退がサルコペニアに及ぼす影響—食欲指標 (SNAQ) を用いた検討—, 第29回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015年6月
 18. 金憲経, 小島成美, 金美芝, 吉田英世, 平野浩彦. 都市部在住後期高齢者におけるサルコペニアの発症率と予測因子—4年間の縦断データを用いて—. 第29回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015年6月
 19. 金美芝, 金憲経, 小島成美, 吉田英世. 地域在住高齢女性における客観的に測定した睡眠・覚醒パターンと歩行速度の関連, 第29回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015

年6月

20. 鈴木宏幸, 河合恒, 安永正史, 桜井良太, 平野浩彦, 吉田英世, 金憲経, 井原一成, 大淵修一, 藤原佳典. 地域高齢者における MoCA-J の3年間の縦断変化と反復効果. 第29回日本老年学会総会合同大会, 2015年6月
21. 吉田英世, 石崎達郎, 金憲経, 金美芝, 小島成美, 平野浩彦, 鈴木隆雄, 地域在住高齢者を対象とした認知機能低下に関する要因の検討. 第29回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015年6月
22. 小島成美, 金憲経, 金美芝, 吉田英世, 平野浩彦, 鈴木隆雄. 都市部在住高齢者における変形性膝関節症と諸疾患の関連の横断的分析, 第29回日本老年学会総会合同大会, 神奈川, 2015年6月
23. 金憲経, 金美芝, 小島成美, 吉田英世, 平野浩彦, 鈴木隆雄. 地域在住サルコペニア高齢者を対象に実施した RCT 介入研究への参加者と不参加者の長期推移比較—4年間の追跡データを用いて—, 日本サルコペニア・フレイル研究会研究発表会, 東京, 2015年10月
24. 安永正史, 村山陽, 鈴木宏幸, 小川将, 河合恒, 吉田英世, 金憲経, 平野浩彦, 大淵修一, 藤原佳典. 高齢者と子どもの交流頻度: 東京都板橋区在住の高齢者における「シニア世代の安全・安心な暮らしに関する調査, 第10回日本応用老年医学会大会, 東京, 2015年10月
25. 藤野健, 小島成美, 金美芝, 吉田英世, 吉田祐子, 平野浩彦, 金憲経. 地域在住高齢者における転倒者の特性分析—1回転倒者と複数回転倒者の比較—, 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
26. 金憲経, 小島成美, 金美芝, 藤野健, 吉田祐子, 平野浩彦, 吉田英世. 地域在住高齢者におけるサルコペニア肥満の有症率とその特徴について, 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
27. 小島成美, 金美芝, 吉田英世, 吉田祐子, 平野浩彦, 大淵修一, 島田裕之, 斎藤京子, 金憲経. 各食品群接種頻度が変形性膝関節症の発症に及ぼす影響—4年間の縦断的研究—. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
28. 井原一成, 藤田欣也, 吉田英世, 小原由紀, 平野浩彦, 藤原佳典, 小島基永, 金憲経, 天野雄一, 端詰勝敬, 蜂須貢, 河合恒, 大淵修一. 地域高齢者における抗不安薬の投与頻度及び眠前投与と多剤投与の実態. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
29. 吉田英世, 井原一成, 端詰勝敬, 吉田祐子, 小島成美, 金美芝, 平野浩彦, 金憲経, 蜂須貢. 地域在住高齢者におけるフレイルと BDNF (脳由来神経栄養因子) との関連性の検討, 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
30. 吉田裕人, 植木章三, 犬塚剛, 佐藤敬広, 森田清美, 芳賀博. 地域高齢者における社会参加活動と将来のうつ傾向との関連性 - うつの環境的要因に着目した分析 -. 日本老年社会科学会第57回大会, 横浜, 2015年6月

31. 吉田裕人, 島田裕之, 堤本広大, 古名丈人, 吉田英世, 植木章三, 芳賀博, 佐藤敬広, 李相侖, 鈴木隆雄. MCI 全国有症率調査東北フィールド中間報告：訪問型調査の2年分の基礎的集計結果. 第10回日本応用老年学会大会, 東京, 2015年10月
32. 吉田裕人, 植木章三, 犬塚剛, 佐藤敬広, 芳賀博. 地域高齢者における社会参加活動と将来の認知機能低下との関連性. 第74回日本公衆衛生学会総会, 長崎, 2015年11月
33. Hiroto Yoshida, Shouzou Ueki, Takahiro Satoh, Go Inuzuka, Kiyomi Morita, Hiroshi Haga. Effects of social activities on the concept of “life worth living (ikigai)” in Japanese older adults. The 68th Gerontological Society of America Annual Meeting, Orlando, USA, November, 2015
34. Katsuya Iijima, Tomoki Tanaka, Aki Kuroda, Koichi Kozaki, Kenji Toba, Masahiro Akishita, Tetsuo Tsuji. Comprehensively Preventive Approach Including Social Engagement for Sarcopenia In The Elderly. GSA Annual Scientific Meeting, Orlando, USA, November, 2015
35. Katsuya Iijima, Tomoki Tanaka, Aki Kuroda, Hirohiko Hirano, Yuki Ohara, Takeshi Kikutani, Hiroyasu Furuya, Masahiro Akishita, Tetsuo Tsuji. Upstream preventive strategy for age-related sarcopenia in the elderly: Verification of the process of frailty with multi-faced factors. The 22th IAGG World Congress of Gerontology and Geriatrics, Chiang Mai, Thailand, October, 2015
36. 高橋競, 田中友規, 黒田亜希, 飯島勝矢. 地域在住高齢者における口腔巧緻性と社会参加の関連—千葉県柏市における大規模健康調査から—. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015年10月
37. 田中友規, 黒田亜希, 高橋競, 飯島勝矢. 地域高齢者の組織参加と低四肢骨格筋量の関連性—傾向スコア逆転重み付け法による交絡調整および効果推定—. 第22回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015年10月
38. 飯島勝矢, 田中友規, 黒田亜希, 辻哲夫. 「栄養(食/口腔)・運動・社会性」三位一体型の新たな虚弱フロー概念：包括的虚弱予防戦略を目指して：サルコペニア早期予防を見据えた『指輪っかテスト』の有用性：フレイル(身体・口腔・精神・栄養)との関連. 第29回日本老年学会総会・第57回日本老年医学会, 横浜, 2015年5月
39. 田中友規, 黒田亜希, 菊谷武, 平野浩彦, 古屋祐康, 小原由紀, 辻哲夫, 飯島勝矢. 総合的な口腔機能低下に対する簡易スクリーニング方の開発—千葉県柏市による大規模調査より—. 第29回日本老年学会総会・第57回日本老年医学会, 横浜, 2015年5月
40. 田中友規, 黒田亜希, 辻哲夫, 飯島勝矢. 『指輪っかテスト』はサルコペニア発症リスクの予測因子である—Cox 比例ハザードモデル—. 第29回日本老年学会総会・第57回日本老年医学会, 横浜, 2015年5月
41. 田中友規, 黒田亜希, 菊谷武, 平野浩彦, 古屋祐康, 小原由紀, 辻哲夫, 飯島勝矢. 舌運動の力と全身の四肢骨格筋量およびサルコペニアとの関連性の検討：—千葉県柏市による大規模調査より—. 第29回日本老年学会総会・第57回日本老年医学会, 横浜, 2015年5月

42. 黒田亜希, 田中友規, 飯島勝矢. 地域在住高齢者の低身体活動に対する『社会性の維持』の重要性: 大規模健康調査・柏スタディーから. 第 29 回日本老年学会総会・第 57 回日本老年医学会, 横浜, 2015 年 5 月
43. 黒田亜希, 田中友規, 飯島勝矢. 地域在住高齢者のサルコペニア有症別からみた社会性とうつ傾向の関連: 大規模健康調査・柏スタディーから. 第 29 回日本老年学会総会・第 57 回日本老年医学会, 横浜, 2015 年 5 月
44. 田中友規, 黒田亜希, 飯島勝矢. サルコペニアに至る構造モデルの構築—千葉県柏市在住高齢者における横断検討—. 第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015 年 2 月
45. 黒田亜希, 田中友規, 飯島勝矢. 高齢者の低栄養に対する社会性の維持の重要性: 地域在住高齢者を対象とした柏スタディーからにおける社会性と低栄養の関連. 第 30 回日本静脈経腸栄養学会学術集会, 神戸, 2015 年 2 月
46. 山田如子, 松井敏史, 竹下実希, 佐藤道子, 小柴ひとみ, 長谷川浩, 神崎恒一. もの忘れ外来患者の外来通院継続 (健存律) に係わる因子の検討. 第 34 回日本認知症学会学術集会, 青森, 2015 年 10 月
47. Koichi Kozaki. Frailty associates with geriatric syndromes and progresses with walking unsteadiness. The 10th IAGG Asia / Oceania Congress of Gerontology and Geriatrics 2015, Chiang Mai, Thailand, October, 2015
48. 神崎恒一. 認知症高齢者のフレイル度の評価. 高齢者医療 Up To DATE フォーラム, 東京, 2015 年 11 月
49. 神崎恒一. (シンポジウム) フレイルと介護予防. 第 3 回日本介護福祉・健康づくり学会大会, 東京, 2015 年 11 月
50. Atomi T, Noriuchi M, Oba K, Atomi Y, Kikuchi Y. Self-recognition of one's own fall evoked the right dominant cortical and brainstem activity. 2015 Int Soc Posture Gait Res (ISPGR) World Congress, Sevilla, Spain, June, 2015
51. 跡見順子, 清水美穂, 藤田恵理, 栗本大嗣, 佐野将英, 畠山望, 跡見友章, 長谷川克也. 身心一体科学からの生活・健康の見直し(1):細胞原理からの体幹体操の効果. 第 70 回日本体力医学会大会, 和歌山, 2015 年 9 月
52. 跡見順子, 清水美穂, 藤田恵理, 長谷川克也, 跡見友章. いのちを知り生かす身心一体科学と教育プログラム～不安定性の二階層と制御原理及び身心連携～. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015 年 10 月
53. 跡見友章, 田中和哉, 代永紗妃, 草場泉紀, 清水美穂, 跡見順子. 抗重力的姿勢・動作の安定性と体幹部姿勢制御戦略の関係性について. 第 22 回日本未病システム学会学術総会, 札幌, 2015 年 10 月
54. 高田勇, 跡見友章, 清水美穂, 跡見順子, 富田昌夫, 八木崇行, 遠松哲志, 田村妃登美, 吉田育恵, 宮下太典. 日常生活動作を支える体幹の筋緊張の身心一体科学的評価系構

築 -立位の空間的な制御パターンに注目して-, 第 22 回日本未病システム学会学術総
会, 札幌, 2015 年 10 月

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし